



安心とつるおの下の町「川の手」をめぐりて

# 防災まちづくり瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

平成21年 1月1日

いちてらこととい  
 一寺言問／防災まちづくり瓦版

編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局  
 発行／一寺言問を防災のまちにする会  
 代表 青木 隆雄

連絡先／墨田区都市整備担当地域整備課  
 〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel. (5608) 6261

## まちづくり懇談会 第1回を開催します



日時：2月7日(土)  
 18時～20時  
 場所：一寺言問集会所  
 連絡先：(03)3610-0223  
 [青木会長宅]

### まちづくり懇談会とは

まちづくり懇談会とは、これからの一寺言問のまちづくりの方向性を決めていくための継続的な会議の場です。今回は記念すべき第一回目となります。一言会は地域内にお住まいの、全ての皆さんを会員と考えて活動しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

### 一言会が 墨田区まちづくり条例 認定団体第1号に

平成17年にスタートした「墨田区まちづくり条例認定団体制度」で私たちの一言会が認定団体第1号となりました。区民による自発的なまちづくりを推進する「墨田区まちづくり条例」は、明るく快適で安全なまちの形成を期待しています。昭和60年以来、路地尊、有季園などユニークなまちづくりを進めてきた私たちの一言会は、この条例による初めての認定団体となりました。



一言会は、住民の自主的な活動としては、全国のまちづくりのパイオニア的存在であり、その24年余の歴史は、全国で展開されているたくさんの後進団体からお手本とされています。

一言会の功績の表れとして、平成9年に、自治省(現総務省)の第1回防災まちづくり大賞にも輝きました。

大規模な破壊や建設を前提としたまちづくりでなく「日頃の生活の中で地道な防災活動を展開する」という一言会の理念は、多くのまちづくり団体の指針として根付き、庶民の文化として広まりつつあります。

今後とも皆さんのご協力のもとに、向島らしい「粋なまち」という面も踏まえて、私たちみんなのニーズによる、充実したまちづくりを進めていこうではありませんか。

なお、この条例による認定団体として、第2号には亀沢・緑地区の「北斎通りまちづくりの会」、第3号には花柳界を中心とする「向島町おこしの会」が認定され、東京スカイツリーの完成も視野に入れた、墨田区活性化の一翼を担うものと期待されています。

### 何故今、まちづくり懇談会なのか

昭和六十年に歩みをはじめた、「一寺言問を防災のまちにする会(通称 一言会)」の活動も来年で二十五周年を迎えます。

大規模な開発や道路拡幅のみによる防災性の向上を図るのではなく、日常のコミュニティの力で防災に強い、災害時に逃げ出さずにすむまちにすることを目標に掲げ、様々な活動を展開してきました。しかし、その間に少子高齢化、情報化社会、核家族化等々、住まいやまちに関わる社会の状況は大きく変化してきました。また、昨年七月から施行された(通称)集合住宅条例や現在進行中、または検討中の水戸街道沿道の不燃化事業や、高度地区の制定等、墨田区の制度も現在転換期を向かえ、我々の生活を取巻く環境も劇的に変わりつつあります。

まちづくり条例認定団体にも認定された一言会として、まちのことを再度見直し、どのようにすれば百年後に子ども達に残せるまちに出来るのか考える必要が生じています。理事会では昨年十月より東京工業大学の真野研究室とコンサルタントの象地域設計と協同で「まちづくり談義」と称した月一回の勉強会を開催してきました。

マンション開発などによる周辺環境や商店街の様子などがどの様に変わってきたのか、そしてこの先どうなるのか、客観的な調査を元に皆さんと意見交換を行いたいと考えております。

「墨田区集合住宅の建築に係る居住環境の整備及び管理に関する条例(通称 集合住宅条例)」が施行されました。

今年3月以降に着工されるマンションを対象とした新たな条例です。内容はワンルームマンションへの規制が主なものですがそれ以上に重大な内容は今後地区内に五戸以上の集合住宅・長屋を建設する際には事業者は区との協議成立の前に、まちづくり条例認定団体である「一言会」へ説明会を開催する義務が生まれたことです。

### 木造住宅の耐震化の助成が拡充されました。

これまで地区内の耐震化については、耐震診断と簡易耐震改修のみ助成対象になっていましたが、昨年十月より新たに東向島一丁目が緊急対応地区に指定され、簡易改修だけでなく、より強度な改修工事に関しても助成対象となりました。

また、助成金額も拡充され、助成限度額はこれまでの三十万円から最高百万円まで出るようになりました。東向島一丁目以外の区域でも助成金限度額が拡充され、そのほかにも手続きの代理申請が可能となったり、活用しやすくなりました。(対象は昭和五十五年以前に建てられた木造住宅です。)

※右記の条例の内容に合わせ、その他の動向に関してもまちづくり懇談会第一回(二月七日開催)でご紹介する予定ですが、より詳しくお知りになりたい方は墨田区都市計画部開発調整課(集合住宅条例)、建築指導課不燃化担当へお問い合わせ下さい。



## 有季園20回目の収穫祭

一言会のユニークな防災活動として人気の有季園(向島5)において、昨年10月18日に20回目の収穫祭を開きました。11軒の利用者さんが、お芋やナスなど取れたての野菜でのバーベキューを楽しみました。



## 言問小にも学童クラブ

向島4、5丁目の皆さんの念願だった学童クラブが、さくら橋コミュニティセンターの分室として、本年4月から言問小でスタートします。子どもさんたちはもちろん、たくさんのお母さん方への朗報です。



## 鳩の町でお餅つき

12月20日早稲田大学の学生さんを中心とした若者達が、鳩の町商店街の一角で餅つきと即売会を行いました。暮れのお買い物の人達も足を止め、ちよびり懐かしい風物詩にひたった一時でした。



## 「てらじま広場」誕生

地藏坂通りにある、まちづくり用地「寺島広場」は、これまで利用者の皆さんが四季折々に花や草を育てていた手作り広場でしたが、二十年四月一日に公園「てらじま広場」として生まれ変わりました。

周囲には花木が植えられ、地藏坂に面してはタイル張り、後方は土の舗装にしました。植物の水やりには雨水利用の天水尊を設置し、一寺小学校の近くには災害用マンホールトイレが四つ埋め込まれ、非常時にはテントを張って使用できます。

四月四日の開園式には山崎区長のご祝辞をいただき、「バンザリ市」恒例の墨田川高校吹奏楽部の演奏も行われ、お披露目式は賑やかに終了しました。

大型花壇と丸型花壇は、募集が決まった元寺島広場の利用者、商店会、一寺小の児童が管理をして、いつも遊具で遊ぶ親子の笑い声が聞こえる広場になりました。



広場の維持管理は近隣住民、中町会、一言会で愛護会を作り、区と管理協定を交わしました。

## 防災訓練に参加した小中学生に「地域防災訓練参加証明書」

一言会は、平成一九年、「防災教育チャレンジプラン」へ参加のお誘いをいただきました。この事業は、総務省消防庁、文部科学省や全国都道府県教育委員会連合会が後援する事業で、事業費用の一部が補助されるものです。

一言会では、この補助をいただき、中学生向けの「参加証明書」を作成し、区内全中学校へ協力依頼しました。町会等の主催者は、参加した中学生に証明書を発行し、参加中学生を通告する中学校へ報告します。中学校では、朝礼や学校便りなどで、参加した生徒を顕彰していただきました。昨年からは、小学生向けの「証明書」も作成し、参加児童にさしあげました。

一言会では、子ども達が自分のまちの防災訓練に参加することによって、災害への対処を体験するとともに、地域の大人と交わることに、もの時にお父さんやお母さんがいなくても、できるだけ安全で安心な対応ができることを期待しています。



## 「会古路地」がきれいになりました

十九年十月に大風で「会古路地」の黒塀が倒れました。続いて、ポンプの土台も壊れ、ポンプが使えなくなりました。それ以前にも、子供会の資源回収活動で利用していた、アルミ缶収納用のゴミ箱も、夜中にアルミ缶泥棒が、缶をつぶす音が付近の皆さんを悩ましたため蓋を封印していました。

「会古路地」は平成三年に完成してから、ポンプやゴミ箱など数回の改修を繰り返していましたが、今回ほど大規模な損傷はありませんでした。

「会古路地」では、いつもご近所の皆さんがお掃除をされたり、見頃の草花の鉢を飾ったりされていましたが、昨年からの第二水曜日の朝、有志の皆さんによる清掃活動をされています。区役所の担当では、このような皆さんのお話を参考に、

黒塀は骨組みを鉄骨で作り、ポンプの土台は石張りに改修しました。

ゴミ箱については予算の関係上、年度に繰り越されました。



## 私がまちづくりスタッフです

その43

真野洋介さん  
(東京工業大学 准教授)



東京工業大学社会工学科  
真野洋介研究室

私と一言会の関わりは平成13年(7年前)にさかのぼります。

その年の秋に開催された「向島博覧会」で、「建て替えデザインゲーム」という模型を使った模擬体験ゲームを一言会の皆様と一緒にさせていただきました。その後、当時勤務していた東京理科大学の学生達と、鳩の街通り周辺の空き店舗等について、お店やお住まいの方々にお話をうかがったり調査し、その成果を展示しました。

一言会20周年記念式典では、20年間のまちの移り変わりを大きな地図の紙芝居式でお話いたしました。それ以来、明治時代から現在までのまちの変化を追いかけております。これを契機に、学生と一緒に、一言会の理事会に参加し、住民の方々の災害に対する意識調査や路地の園芸調査、小中学生への防災訓練の参加をすすめる活動などを一緒にさせていただきました。また、学生達の卒業論文や大学院修士論文などでも、様々なまちの調査を行わせていただきました。

一言会は、平成22年に結成25周年を迎え、これまでの成果を整理し、原点に立ち返って、将来に向けたこれからのまちづくりについて考えていければと思っております。特に最近では、マンション建設や、建て売り住宅の増加や新タワーの建設など、住まいとまちをめぐる様々な状況が変化しています。

こうした様々な課題に対応するために、昨年秋から一言会の中で「まちづくり談義」が始まり「まちづくり懇談会」発展しようとしています。このような機会をとおして、さらに安全で住みよいまちの将来について考えていきたいと思っております。